

横山（二話） = = = 三州横山話より

位置

三河の西を流れている矢作川に対して、東側を縦断している豊川の流域に開拓された平地が、地図によって見ると、上流に溯るにしたがって、東の方、遠江に境した連山と、西側の本宮山を基点として北へ走った山々にだんだんせばめられていって、最後に平地が微かに消えてしまおうとするところで、川が二つに別れているところがあります。東から流れている川を三輪川といい、西から流れる川を寒狭川と呼んで、豊かな川と書いた豊川の名称はここで尽きて、水の流れも急に谿の形に変わると同時に、これから北へ、三河の東北隅一帯を占めている山地が深く続いています。

この二つの川に挟まれた三角面を、西から流れる寒狭川に沿って十数町溯った東岸にある部落が横山の地です。

この三角形の地が南設楽郡長篠村（現、鳳来町）で、三角形の突端が戦国時代の長篠の城址で、三輪川を隔てた、八名郡の舟着村（現、南設楽郡新城町）、寒狭川を隔てた南設楽郡の東郷村あたりへかけて長篠の古戦場になります。

豊橋から起こっている飯田街道は、豊川の西岸を一直線に横山の対岸まで来て、ここから寒狭川の溪谷に入り、山峡を北設楽郡の寒地を巡って、信州の飯田へ通じています。往時はこの街道を、飯田から、信州産の綿を馬力で運搬して来て、横山から舟に積んで川を下ったそうですが、明治十七、八年頃を最後にして来なくなったと言います。

伝説によると、太古この附近一帯は一面の海で、横山の南東、豊川の東岸に聳えている舟着山の頂上の岩へ船を繋いだなどと言って、附近の大海、有海、岩出、乗本などの地名は、その頃の名残だなどとも言います。

舟着山の麓を、豊川から三輪川に沿って、北設楽郡の本郷を経て信州の飯田へ通ずる、別な道があつて、舟着山の北の麓を山峡を通過して、山吉田から遠江の引佐郡へ通じている街道もあります。

横山の名称

東海道線を豊橋から分岐して、北に走っている豊川鉄道の終点、長篠駅(*1)の東北に、谿を隔てて山の裾に、西南に面して、南北に細く一列に家の並んでいる部落がそれで、現今、南設楽郡長篠村大字横川字横山組と呼んでいる戸数三十戸ほどの部落ですが、以前は設楽郡横山村と言う独立した村で、現今、大字横川をなしている対岸の滝川村と共に、徳川氏直接管領の地で、赤坂代官所

へ納入の年貢米は、僅々六十二石余に過ぎなかったそうですが、村のものは、みずから天領と称えていたといひます。

ずっと昔は知りませんが、現今横山組で保管している村の記録によりますと、天正(*2)以来言い習わした地名らしく、当時は寺が一つ、家が十一戸しかなかったようですが、その後六戸まで減った時を最少として、おいおい地類をふやして現今に至ったようです。

(*1)飯田線は、明治33年(1900年)豊川鉄道により吉田(現・豊橋)～長篠(現・大海)間が開業、鳳来寺鉄道により大海～三河川合間が開業し「本長篠駅」が出来たのは、大正12年(1923年)のことです。この本が書かれた大正の初期には、終点は長篠駅(大海駅)でした。

(*2)天正1年は1573年です。長篠の戦いは天正3年(1575)でした。